

目 次

まえがき 千畑一郎... i

味とにおいの生理学 1

1 味覚のしくみ	加茂直樹, 栗原堅三, 小畠陽之助... 3
1 化学感覚	3
2 味の感覚	4
3 味受容器	5
4 味覚の神経生理学	6
4.1 受容器電位	6
4.1.1 味受容の最初の過程	6
4.1.2 味受容器電位の測定	7
4.1.3 味受容器電位と“ナトリウム説”	8
4.1.4 荷電膜の膜電位	9
4.1.5 味受容膜モデル	12
4.1.6 界面電位の性質	13
4.2 神経インパルス	14
4.2.1 味神経束および単一神経線維の応答	14
4.2.2 Phasic response と tonic response	17
5 味受容の分子的機構	19
5.1 生体膜構造と味受容	19
5.2 塩, 酸味	21
5.2.1 陽イオンと陰イオンの影響	21
5.2.2 塩味刺激と界面電位	22
5.2.3 受容膜と陽イオンの相互作用	23
5.3 甘味	24
5.3.1 塩による糖応答の抑制	24
5.3.2 甘味受容と界面電位	25
5.3.3 甘味受容タンパク質	26
5.4 苦味	27
5.4.1 苦味受容サイト	29
5.4.2 苦味受容と膜抵抗変化	29
5.5 旨味	29
5.6 水応答	30
5.6.1 順応液のイオン組成の影響	31
5.6.2 塩による抑制	31
5.6.3 カエルの舌における水応答とカルシウム応答	32
5.6.4 拡散電位と水応答	32
5.6.5 単一脂質膜の水応答	33
5.6.6 界面電位と水応答	34
5.6.7 水応答と off 応答	34
5.7 味覚変革作用	35
5.7.1 麻酔剤	35
5.7.2 ギムネマ酸	35
5.7.3 すっぱいものを甘くするタンパク質	36
5.7.4 朝鮮アザミの活性物質	38
5.8 味受容器電位の神経インパルスへの変換	38
6 味覚刺激の情報処理	39
7 味覚測定	41
文 献	42

2 嗅覚のしくみ 高木貞敬... 47 |

1 はじめに	47
2 においの感覚	48
2.1 銳敏さ	48
2.2 疲労しやすさ	48
2.3 個人差	49
2.4 閾値の変動	50
2.5 においの記憶と夢	50
2.6 においの打消し, 隠蔽と変調	51

3 嗅覚受容器の構造	51	7.1 呼吸系への影響.....	71
4 嗅覚の神経生理学	54	7.2 循環器系への影響.....	71
4.1 受容器電位.....	54	7.3 消化器系への影響.....	72
4.1.1 エレクトロオルファクトグラム (EOG)	54	7.4 生殖器系への影響.....	73
4.1.2 EOG はどこで発生するか?	57	7.5 内分泌系への影響.....	74
4.1.3 EOG とは何か? その働きは?	57	7.6 精神状態への影響.....	74
4.2 神経インパルスの発生.....	58	7.7 動物界におけるなわ張りと順位制.....	75
5 嗅覚受容の機構	59	7.8 動物界における仲間の認識と異性の発見.....	75
5.1 隠性 EOG を発生するイオン	59	7.9 動物界における逃避行動.....	75
5.1.1 Na^+ の役割.....	59	7.10 動物の母性行動	75
5.1.2 K^+ の役割	61	7.11 サケの母川回帰	76
5.2 経過の長い陽性 EOG を発生するイオン- Cl^- の役割	61	8 嗅覚測定	76
5.3 支持細胞の働き	62	8.1 経鼻性嗅覚測定	76
5.4 におい分子とその受容部位との関係	63	8.1.1 におい紙式オルファクトメーター	77
6 嗅神経系の情報処理	64	8.1.2 Zwaardemaker 式オルファクトメーター	78
6.1 嗅細胞の情報処理	65	8.1.3 噴射注入式オルファクトメーター	78
6.2 脳の最初の中継点—嗅球の働き	67	8.2 血行性嗅覚テスト	79
6.3 より高位の嗅覚領における情報処理	68	8.3 においの強さと質の表現	79
7 においの生体への働き	71	文 献	82

化学構造と活性の相関

3 甘味の化学

1はじめに	85	2.10 ズルチン	108
2 甘味物質	86	2.11 サッカリン, サイクラミン酸, オキサチアジノンジオキシド	110
2.1 無機化合物	86	2.11.1 サッカリン	110
2.2 糖類および多価アルコール	87	2.11.2 サイクラミン酸 (シクロヘキシルスルファミン酸)	111
2.3 カルボン酸	90	2.11.3 オキサチアジノンジオキシド誘導体	112
2.3.1 2-アリールカルボニル安息香酸類	90	2.12 ペリラルテン	112
2.3.2 ヒドロキシ酸類	90	2.13 トリアゾール, テトラゾール	114
2.3.3 ヘキサヒドロフルオレン誘導体	91	2.14 味覚変革物質	114
2.4 アミノ酸とその誘導体	92	2.14.1 ミラクリン	114
2.5 ペプチド	93	2.14.2 朝鮮アザミ	115
2.6 タンパク質	100	2.14.3 ギムネマ酸	115
2.6.1 タウマチン	100	2.15 その他の甘味物質	116
2.6.2 モネリン	100	2.15.1 ハログン化炭化水素	116
2.7 配糖体	101	2.15.2 アミド	117
2.7.1 ジヒドロカルコン類	101	2.15.3 アルキルマロンヒドラジド	117
2.7.2 グリチルリチン (グリチルリチン酸)	103	2.15.4 アルカロイド	118
2.7.3 ステビオンド	104	3 甘味の分子論	118
2.7.4 オスマジン	105	4 展望	122
2.8 イソクマリン誘導体	105	文 献	125
2.9 ニトロアニリン, シアノアニリン	106		
2.9.1 ニトロアニリン	106		
2.9.2 シアノアニリン	107		

4 苦味と辛味の化学	芝 哲夫	129
1 苦味物質		129
1.1 はじめに		129
1.2 アルカロイド		131
1.3 テルペン		131
1.4 糖、配糖体		136
1.5 アミノ酸		139
1.6 ペプチド		140
1.7 苦味と味盲		146
2 辛味物質		146
2.1 アミド類		148
2.2 バニリルケトン類		150
3 おわりに		151
文 献		153
5 旨味の化学	荒井綜一, 藤巻正生	157
1 はじめに		157
2 旨味物質		158
2.1 アミノ酸		158
2.1.1 グルタミン酸とその誘導体		158
2.1.2 トリコロミン酸およびイボテン酸		160
2.2 核酸関連物質		160
2.3 ペプチド		162
2.3.1 α -L-グルタミルジペプチド		162
2.3.2 α -L-グルタミルトリペプチド		163
2.3.3 その他のグルタミン酸オリゴペプチド		164
3 相互作用		165
3.1 L-グルタミン酸と核酸関連物質		165
3.2 ペプチドの旨味効果		166
3.3 L-グルタミン酸オリゴマーの苦味遮蔽能		166
4 展 望		167
文 献		167
6 においの化学	吉田利男, 鶴田治樹	169
1 はじめに		169
2 異性体とにおい		170
2.1 光学異性体とにおい		170
2.2 立体異性体とにおい		172
2.3 幾何異性体とにおい		174
2.4 構造異性体とにおい		176
3 同族体とにおい		179
4 官能基の変化とにおい		183
5 異構造で同一系統のにおい		191
6 おわりに		194
文 献		194
7 食品のフレーバー	藤巻正生, 荒井綜一	199
1 はじめに		199
2 フレーバーの生成		200
2.1 生合成によるフレーバーの生成		200
2.2 加工によるフレーバーの生成		203
2.2.1 加 热		203
2.2.2 酸 化		205
2.2.3 微生物		211
2.2.4 酵 素		211
3 フレーバーの評価		212
3.1 閾値を考慮したガスクロストグラムの		
3.2 ガスクロマトグラムのコンピューター解析		213
3.2 ガスクロマトグラムのコンピューター解析		213
4 展 望		214
4.1 フレーバー生成機構の調節		214
4.2 振発性フレーバーと不揮発性フレーバー		215
4.3 フレーバーの客観的評価		215
4.4 食品中でのフレーバー成分の存在状態		216
文 献		216